

研究所ニュース No.77

りべらしおん

「りべらしおん」は、フランス語で「解放」という意味です。

発行：公益社団法人 福岡県人権研究所

〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13-50 福岡県吉塚合同庁舎4階 TEL 092-645-0388
FAX 092-645-0387 e-mail info@f-jinken.com URL http://www.f-jinken.com/

2016.6.26(日)

第189回定例研究会

(兼 第1回ジェンダー部会)

性による差別のない社会の実現

講師 柳 淑子(やなぎ よしこ)さん

6月26日(日)午後3時から福岡市人権啓発センター(ココロンセンター)研修室で、ジェンダー部会の企画による定例研究会を開催しました。テーマは「性による差別のない社会の実現」、講師は柳 淑子さん(写真右上)。(参加者14名)。

研究会の案内に、柳さんはおよそ次のように書かれていました。

“憲法制定から70年、男女共同参画社会基本法制定からもやがて20年、特に「緊要な課題」だったはずの「男女共同参画社会」創り。しかし、その現状は?

国を挙げての取組みの「いい加減さ」「遅さ」

報告 第67回部落解放同盟福岡県連合会定期大会

2016.7.30

7月30日(土)、パピヨンホール(福岡市博多区)で代議員500人が集い標記の大会が行われました。福岡県人権研究所は来賓として理事長が登壇しました。

解放歌斉唱のあと開会行事では部落解放同盟福岡県連合会 松本 龍 顧問(部落解放同盟中央本部副委員長)が、「世界は激動している。これを人権確立に向けて変えるのがこの大会」とあいさつ。福岡県連 組坂 繁之 委員長(中央本部執行委員長)は、あいさつの中で部落差

のツケが
回ってき
ていると
言っても
過言でし
ようが、
格差の固
定化も加



わり、人権の確立とは遠い状況です。だれもが安心して、働き、暮らせ、そして産みやすく育てやすい社会・環境づくりはまだまだです。”

講師の柳さんは、高校教諭としての体験や自治体の男女共同参画審議会委員等として行政等への提言を行ってきた体験を踏まえて、

“このような国の浮沈が問われるほどの現状だからこそ「性による差別のない社会づくり」には今がチャンスであること”を具体的に問題提起していただきました。

別解消推進法の動向、戦争は最大の差別であること、狭山の証拠開示、「解放の父・松本治一郎先生の逝去50周年」集会(11/22)など、運動の現状と取り組みの重点を提起しました。

また、小川洋福岡知事もあいさつを行いました。

“「不可侵不可被侵」の精神と運動を継承・発展させる”(大会スローガンから)という人権社会確立に向けた広がりが示された大会でした。
(事務局)

報告 第190回 定例研究会 [2016. 7. 10(日)]

(松本・井元研究会／第2回部落史研究部会／第3回史・資料プロジェクト)

堀田秀茂「久留米藩惣長吏頭出自のムラと頭役についての一考察」(九州地区部落解放史研究集会プレ発表)とフィールドワーク

7月10日(日)、田園の中に位置する久留米市立北野集会所に16名の参加者(報告者を含む)が集まり、第190回定例研究会を行いました。

内容は、二部構成で第一部が研究報告「久留米藩惣長吏頭出自のムラと頭役についての一考察」についての学習会。第二部が「大刀洗町キリストン・フィールドワーク」でした。報告者、フィールドワーク講師は、久留米市人権・同和教育課指導員として北野集会所に勤務する堀田秀茂さん(会員/写真下)です。

今回の定例研究会は、8月27(土)~28(日)鹿児島県で開催される第35回九州地区部落解放史研究集会のプレ発表としての位置づけもありました。

13時、事務局の峰さんの進行で研究会が始まり、研究所の塙本理事が主催者挨拶を行いました。



の発表でした。

1 長吏頭出自のムラについて(後半のフィールドワーク)

2 O 文書(頭役歴代記)と墓碑の整合性について

3 久留米藩頭役についての考察

O 有馬氏以前の被差別民衆

O I期(初代から五代目まで)についての様相

O II期(六代目から七代目まで)についての様相

O III期(八代目から十三代目まで)についての様相

O IV期(十四代目から十七代目まで)についての様相

を年表、O家文書や拓本などを駆使しながら、

報告 塙本 博和(本研究所理事)

丁寧に熱く語っていただきました。

その後、質疑応答を行いました。

第2部は、車3台に分乗してのフィールドワークでした。

最初に久留米藩惣長吏頭F家(1~5世)の墓碑及び顕彰奉納灯籠です。

(写真右)

ここは集会所のすぐ隣で

した(堀田さんは参加者のために事前に草刈りをされていました)。

2か所目~5か所目は大刀洗町のキリストン関係でした。

第1部は、堀田さんがプレゼンテーション形式で、主に次の3点

へ行きました。(写真上)

2か所目は、本郷町獄門場(俗称ハタモン場)「ジョアン又右衛門殉教地」跡

3か所目は、上高橋老松神社です。ここには、隠れキリストンの貴重なものが残っています。

いました。上の写真は、境内の三角形の手洗い石で天草や島原のキリストン遺物として多



い物です。

4か所目は、今村教会(教会堂は国指定重要文化財)です。参加者で集合写真を撮りました。教会のしおりなども購入しました。

この教会の設計施工者は、鉄川与助氏で長崎の浦上天主堂と同じ人です。

5か所目は、カトリックの共同墓地です。十字架がついているお墓がたくさんありました。(写真下)



その後、北野集会所にもどり、森山理事長のまとめと講師・参加者へのお礼で会を締めくくりました。

今村教会のお土産のしおりに下のような言葉が書かれていましたので、その言葉を紹介します。

「あなたたちは、長崎から来られたというおられますか、何しに来られたとですか?」

「はい、私たちは、長崎の浦上の者で大浦天主堂の神父様のお使いで、この今村にもキリスト者が隠れ住んでいると聞いて確かめに来たので



機関誌『リベラシオン』柳町特集をもとにしたお芝居
機関誌『リベラシオン』157号柳町特集をもとに創られたお芝居「柳暗花明」(劇団ショーマンシップ)が6月1日から甘棠館(かんとうかん)にて上演されました。各公演45分前から始まる唐人町商店街を花魁さんが高下駄で練り歩く「花魁道中」(写真:左)も行われました。

す。」

話を聞いた今村の人たちは、「我々もキリストン宗門です。長崎に同じキリストの人たちが潜んでいたとは、初めて聞きました。私たちの先祖は、それはもうひどい迫害を受け、ジョアン様をはじめ何人の人が殺されたと伝え聞いていましたので、今まで長い間密かに村内だけで守り通してきたのです。」

4人は、今村にも信仰を守り通した仲間がいたことを、大変喜びました。その後、今村からも長崎へ人を遣わして、交流したことです
~「信徒発見物語」~

久留米藩の民衆政策、キリストン政策の実相を提案、フィールドワークでの説明をしていただいた堀田秀茂さん、参加者の皆さんありがとうございました。

<参加者のアンケートから>

○久留米藩についてほとんど知らなかったのでとても勉強になりました。同じ福岡県内でも各地によって違うので今回のような県内各地の部落史に関する研究、F.W.を行ってほしい。

○自分の身近な地域の歴史が分かっておもしろいと思いました。いろいろ知りたいです。

○隣町、大刀洗町に60年間も住んでいながら何も知りませんでしたので、知らなかつたとうことを含め、自分の過去、自分の生き方を検証したいと思いました。

○長吏頭の歴代の頭の流れがよくわかつた。8代目13代目の関係があらためてわかつた。

○詳しい史資料とともに報告していただきとてもわかりやすかったです。

堀田秀茂さんは、第35回九州地区部落解放史研究集会(鹿児島県 8/27、28)で、「久留米藩と惣長吏頭との関係について」と改題して報告をします。



会員からのお知らせ

from ◇ 真野 豊さん



絵本紹介『王さまと王さま』(ポット出版)

王子さまとお姫さまの物語ではなく王子さまと王子さまが結ばれるお話があつていい……。LGBT(レズビアン・ゲイ・バイセクシャル・トランスジェンダー)をテーマにした絵本です。オランダで生まれ世界各国で翻訳されています。世の中には多様な性が存在することを絵本で子どもたちに伝えたいといふ訳者からのメッセージ。(※ Kindle 版と単行本があります。)

<絵と文>リンダー・ハーン、スター・ナイランド
<訳>アンドレア・ゲルマー／真野 豊

from ◇ 高原 昇さん

むなかたに人権の輪を [第25回宗像地区「同和」教育研究集会]のお知らせ

日時：9月4日(日) 10:00～15:00 場所：日本赤十字九州国際看護大学(宗像市)
内容：開会行事 10:00～10:20
【全体会】10:30～12:00 「みんなで育てよう『絶対的自尊感情』－人権感覚・学びの礎ここにあり－」
講師：園田雅春さん(大阪成蹊大学教授)
【分科会1】13:00～15:00 「正直に生きる－私が水俣病から学んだこと」
講師：緒方正実さん(水俣市立水俣病資料館語り部の会)
【分科会2】13:00～15:00 「豊かな言葉を育もう!!－『人権教育の手引き』活用に関わる取り組みから－」
講師：糸島市『人権教育の手引き』作成委員会
参加費：500円 *大学生以下無料 託児無料

* 詳細は同封の案内参照

主催・共催事業のお知らせ (詳細は同封の案内参照)

▷ 第64回北九州人権フォーラム21市民講座
(公益社団法人福岡県人権研究所第1回啓発担当者のつどい)

テーマ 「水俣になにを学び、

次世代になにを伝えるか」(仮)

講師 花田 昌宣さん(熊本学園大学教授)

日時 9月23日(金) 18:30～20:45

会場 北九州市立大学北方キャンパス本館C202

参加費 500円

▷ 第14回筑前竹槍一揆ウォークin宇美 日時：11月6日(日) 9:30受付10:00～15:30

▷ 史実と授業・啓発の結合をめざして 日時：11月12日(土) 会場：古賀市リーパスプラザ

決定！
海外人権スタディツアーアイテム
(第12回) in フィリピン
2017年1月4日(木)～8日(金)

海外の人権状況を視察し、自分たちの人権感覚・人権意識を高めることを目的とする海外人権スタディツアーアイテム。今年度は、次のような企画を業者に提供しました。

- ▷ 訪問先及び内容(予定)
 - ①フィリピン セブ島(セブ島の環境問題の取り組み／学校訪問／現地の方との交流など) ②マニラ(バヤタス地区のスマーリーマウンテン(ゴミの山) 視察／独立記念館見学など)
- 【残席はあとわずかです。】

- ▷ 第2回事前学習会 12月4日(日) 14時から福岡県人権啓発情報センター(春日市)で行います
- ▷ 企画 公益社団法人福岡県人権研究所海外人権スタディツアーアイテム企画部会
問合せ (092)645-0388 事務局：峰
- ▷ 主催 株式会社日旅九州エンタプライズ

人権資料・展示全国ネットワーク第21回総会 in 三重

2016.6.23(木)～24(金)

○はじめに

6月23日(木)～24日(金)、三重県伊賀市児童扶養手当受給世帯アンケート調査の分析をもとに生活困窮者、マイノリティに集中する社会問題と「再生産」が進む現状。その実態を踏まえて「小学校単位で求められる隣保機能をもった重層的な支援体制の整備・展開」など16の提言がありました。その後、常設展示室の見学で1日目が終了しました。

ニュース「りべらしおん」でも加盟団体の紹介を連載しています。

1 総会・意見交換

「人権資料・展示全国ネットワークニュースの発行予定」と、代表を公益財団法人奈良人権文化財団水平社博物館とすることを決定しました。

加盟団体のからの意見交換では、大阪人権博物館から「リバティおおさかの現状と支援について」、水平社博物館から「FIHRM(国際人権博物館連盟)加盟について」、水俣歴史考証館から「動き続ける水俣病事件」などの報告がありました。

2 記念講演と常設展示見学

記念講演は「公益財団法人反差別・人権研究所みえ」調査・研究員 松村元樹さんによる「生活に困窮する人たちの今～生活困窮者を取り巻く課題解決に向けて～」とい



幾多の先達の反差別への思い・闘いを知ろう 伝えよう つなごう！

博多毎日新聞差別記事事件100周年の集い

期日 2016年10月29日(土) 13:30～受付 14:00 開会 16:30 閉会

会場 福岡市千代人権のまちづくり館(博多区千代3-49-13)

主催 博多毎日新聞差別記事事件100周年の集い実行委員会

後援 公益社団法人福岡県人権研究所、部落解放同盟福岡市協千代第一支部

族が暮らす大地」という思いを込め「北加伊道」から「北海道」の名が誕生しました。



<今も残る顕彰碑>

多様なものを偏見をもたない眼でみつめる松浦武四郎、「松浦武四郎の名はこれから広がっていくのではないか」という説明が印象的でした。

○ おわりに

全国の仲間と出会い「差別のない人権社会の実現に向けて何をなすべきか」を改めて問い合わせ直し、つながりを広げることができた2日間でした。来年は奈良県で行われます。

今回は、人権ネットワーク加盟団体の紹介に代えて総会の様子を報告しました。次回からまた人権ネット会員団体の紹介をします。

(事務局 山口正子／峰司郎)

報告 2016. 7. 30(土), 31(日)

第22回全国部落史研究大会 ～渡辺俊雄報告を中心～

報告 加来 康宣(本研究所理事)

○はじめに

第22回全国部落史研究大会は、7月30日(土)、31日(日)に京都市地域・多文化交流ネットワークセンターで開催された。1日目は分科会(前近代史と近現代史)、2日目は秋定嘉和さんの全体講演が行われた。

私が参加した近現代史分科会では、渡辺俊雄さんが「和歌山『西川事件』の再検討～部落解放運動が直面した諸問題～」を報告された。

1 和歌山「西川県議問題」とは

西川事件の発端は、1952年2月27日の西川義(ひろし)県議の以下のような差別発言であった。西川県議は、電話口に出ない部落出身議員のことを「あいつらみな水平社と一本になっている、エッタボウシとぐるになりやがって」と連発。居合わせた二人が抗議したが相手にならなかった、という問題であった。

1952年といえば、サンフランシスコ講話条約、日米安全保障条約の発効の年であり、東京においてはメーデー事件が勃発するなど、騒然とした時代であった。

この時期に、和歌山県では差別事件に対する同盟休校が55校(14000人)で行われ、県政を揺るがし、西川県議は辞職に至った。「オールロマンス」事件直後の大闘争であった。

2 渡辺俊雄さんの提起

渡辺さんは、以下の点を再検討した。下線部は、『戦後部落解放論争史』(師岡祐行1980年)の記述、☆が、渡辺さんの再検討である。
 ① 3・8 日高地方人権擁護委員会主催で確認会。解放委員会の菊冠旗を先頭に、怒りに燃えた500人の部落大衆が議事堂に詰めかけた。西川は傲慢な態度を変えなかった。これが傍聴の人びとの憤激に油をそそぎ、痛烈な弥次がとびかかった。

☆「確認会(糾弾会)の真相」

3月8日の糾弾会は当初少人数の「真相調査懇談会」として予定していた。しかし、実際には12時間にわたる「人民裁判」(西川)にな

った。西川に対する同情論も生まれた。

② 5・5 西川辞任、ねばりづよい実力行使が政界からの追放実現

☆「西川辞職の経緯」

西川の辞職実現の経緯は単純ではなかった。

5・4 藤範(県民生部長)と平井が西川と折衝し、辞表を預かる。

(西川)「仲裁和解の条件」

- 一、辞職もリコールもなし
- 二、辞表は誠意、議会に提出しない
- 三、リコールを取り止める

(藤範)「無条件に受け取った」

5・6 西川の辞表提出、受理

5・9 西川、藤範・平井を告訴(約束違反)

笛野・久保田議員が辞表

「平井氏から言われた西川氏の希望を議員総会に取り次がなかった」から

③ 10・5 補欠選挙、西川は再出馬し中野茂宣(共同闘争委員長、人権擁護委員会委員長)とあらそて勝つ。

☆「西川の圧勝」

10月5日の補欠選挙には、西川と中野茂宣(共同闘争委員長、人権擁護委員会委員長)、田ノ本の三人が立候補し、選挙結果は西川(35721票)、中野(9239票)、田ノ本(5380票)で、西川の圧勝であった。中野が西川を上回った町村は湯川のみで、半数前後にせまつたのは御坊・志賀・切目の海岸沿いの限られた町村であった。山間部では一桁から二桁しか得票できず、惨敗であった。

④ 都市におけるほどスムーズにことがはこんだわけではなかった。…京都市役所には中川のような人物がいて…和歌山県政にはそうしたものは皆無であった。請願書の受け入れで勝利したと考えすぎる。受け入れで同和行政が大きく改められる保証はどこにもなかつた。

☆「和歌山県における同和行政の変革」

行政のなかに中川のような人物はいたし、同和行政は進展した。具体的には、県主導で同和行政の予算が増額された。52年6月には同和事業の促進のため同和問題研究委員会を設置した。県民生部長として藤範晃誠が重要な役割を果たした。52年8月には県独自に部落解放行政国策樹立請願を行った。

以上のように師岡さんの評価のいくつかが渡辺さんの報告により覆されている。それは、渡辺さんが『和歌山の部落史』の編纂過程で

得た新資料によるものである。

3 歴史的事実の選択と意味づけ

西川事件に限らず、闘争の周辺では様々な出来事が起こっていた。また、闘争は闘争の当事者の思惑を超えて展開することもある。歴史は多面的・重層的であり、様々な力が働いているのであるから、見落としてはならない重要な事実を含んでいる。その事実を一つひとつ積み重ねることによってしか歴史叙述はできないと考える。

正確に再現できないが、討議の中で参加者から「部落解放史観ではなく……」という発言があった。個人がどのような歴史観を持つかは自由である。しかし、多くの歴史的事実の中からなぜそれを選んだのか(選ばなかつ

たのか)、その事実の意味づけはそれで良いのかは当然論議の対象になる。

今回の渡辺報告について思うのは、渡辺さん作成の「西川事件差別糾弾闘争の経緯(抄)」についてである。渡辺さんの再検討は多岐にわたっており、新しい事実を提起している。しかしその一方で、警察による部落への強襲と指導者の逮捕という「6・30」事件を(抄)に記載していない。それは、単なるミスなのか、重視しないからなのであろうか。渡辺さんの歴史観によるものなのであろうかという疑問が残った。「再検討を行う人」の問題意識などが問われてくると考えさせられた研究大会であった。

この不信のサイクルを信頼のサイクルに転換する努力をすること、⑥市民として言葉や文化、考え方の違い(多様性)を理解し合うこと、などです。

被爆者の平均年齢は80歳を越え、世界が「被爆者のいない時代」を迎える日が少しずつ近づいている中で戦争、被爆の体験をどう受け継ぐかの課題にも言及しました。最後に、福島の原発事故にも触れ、世界の人々と連携し、核兵器廃絶と恒久平和の実現に向けて力を尽くすという内容でした。

2 ナガサキからの発信

会場には、各国の大使や多くの外国人の方が来ていました。国連事務総長メッセージをキム・ウォンスン軍縮担当上級代表が代読しました。被爆者の方々は「ノーモア、ネバーアゲイン」という声をひとつにして伝えてきた、被爆者の方が高齢化する中で、新たな世代がピース・メッセージの一役割を担わねばならない時がきていることを強調したものでした。

3 被爆遺構の保存の重要性

語られる人たちの背後に「平和祈念像」があります。私は、いつも力の象徴のような気がしてなりません。原爆遺構として廃墟の浦上天主堂を残しておけばという想いがこみ上げてきます(この件については『消えたもう一つの「原爆ドーム』』(文春文庫)に詳しく書かれています)。失ったものは、復元できません。その意味で被爆遺構を後世に伝えることも大切なことだと考えます。

○ おわりに

式典の中で「献水」というのが行われました。「水」を求めるながら亡くなった多くの被爆者の声が通奏低音のように私の心を揺さぶるものでした。



長崎市長の「長崎平和宣言」で心に残ったことは、
 ①核兵器は人間を壊す残酷な兵器、②(オバマ大統領を例に)自分の目と耳と心で感じることの大切さ、長崎や広島に来て、原子雲の下で人間に起こったこと、事実を知ること、それこそが核兵器のない未来を考えるスタートラインであること、③国連など核廃絶に向けて法的な議論を行う場を絶やしてはいけないこと、④日本政府は核兵器廃絶を訴えながらも一方では抑止力に依存するという立場をとっていること、⑤核兵器の歴史は不信感の歴史であり、



た。

原爆遺族の代表は、北海道から沖縄県という全国から集っていました。人権文化に満たされたま

ちづくり、持続可能な社会をめざすことは本研究所の目的です。日々の仕事が、被爆2世としての歩みにつながると考えました。

事務局日誌から (2016年6月21日～8月21日)

6月

- 23木 人権資料・展示全国ネット第21回総会(～24(木)三重県津市) (第3回翻訳プロジェクト)
- 24金 第70回松本・井元研究会
- 25土 第2回教育部会(福岡市) (第50回福岡県地方史研究協議会地方史フェア(福岡市))
- 26日 第189回定例研究会(兼第1回ジェンダー部会)/柳 淑子「性による差別のない社会の実現」／福岡市) 第1回外国人部会(福岡市)
- 27月 事務局会
- 28火 (第3回歴史学習プロジェクト(須恵町／「自由民権運動と部落解放運動」))
- 29水 新人権教育学習教材開発第1回検討委員会(福岡市) 公益法人定期提出書類提出

7月

- 4月 事務局会 (第4回翻訳プロジェクト)
- 9土 第3回部落史研究部会(兼史資料プロジェクト)(古賀市)
- 10日 第190回定例研究会(久留米市／堀田秀茂「研究報告；久留米藩惣長吏頭出自のムラと頭役についての一考察」と「大刀洗町フィールドワーク」)
- 12火 事務局会 ムーブフェスタ(北九州市) (第5回翻訳プロジェクト)
- 14木 海の日
- 18月 事務局会
- 20水 (第6回翻訳プロジェクト)
- 21木 世界遺産「めざす会」役員会(京都市)
- 22金 第71回松本・井元研究会
- 23土 第3回教育部会(福岡市) 第2回啓発部会(福智町)
- 24日 第2回執行理事会(吉塚合同庁舎)
- 26火 (第4回歴史学習プロジェクト(須恵町／「水平運動と融和運動」))
- 30土 部落解放同盟福岡県連合会定期大会(福岡市) (第22回全国部落史研究大会(～31京都市))

※意識調査や実態調査等の受託事業に関する調整・事務、研究・研修や教育・啓発に関する相談業務、研修会の企画・運営、講師依頼への対応、補助金申請・報告や公益法人関係事務、関係機関・団体との連携・調整事務等については一部省略しています。

8月

- 1月 事務局会 (第7回翻訳プロジェクト)
- 4木 福岡県人権・同和教育夏期講座(福岡市)
- 5金 福岡県地方史研究連絡協議会「地方史研究等に関連した人権・同和問題学習会」(福岡市)
- 8月 (第8回翻訳プロジェクト)
- 11木 山の日 夏季閉局(～15(月))
- 16火 事務局会 (第9回翻訳プロジェクト)
- 17水 (第10回翻訳プロジェクト)
- 21日 第2回海外ST企画部会(福岡市) (第5回歴史学習プロジェクト「フィールドワーク」)

紹介

『2015度 史資料プロジェクト 報告集』

(公社) 福岡県人権研究所 研究プロジェクト助成事業の成果が報告集になりました。

「史資料プロジェクト」は、2015年度スタートの研究助成プロジェクト。古文書を読み進める学習会を、2015年度は8回開催しました。

研究テーマは、①江戸時代における福岡県内の被差別部落の実相を、古文書の解説を通して明らかにする、②県内各地の身近な地域の被差別部落史を明らかにし、小中学校の人権・同和教育に活用できるようにする、③研究所は「史実と授業・啓発の結合をめざして」(研修会)を開催してきており、本研究プロジェクトの成果を小中学校の地元教材として活用できるようにする——です。古文書を読む入門書としても使えます。

(価格 300円 : 問合せは事務局まで)



2015年度
(公財)福岡県人権研究所
史・資料プロジェクト 報告集